

## 第17回中央新幹線小委員会 議事要旨

平成23年4月8日（金）10:00～12:15

### <蒲生幹線鉄道課長より、現地視察報告について説明>

（現地視察報告に対する委員からの主な意見）

- ・机上だとわからないものが実感として得られ、かなり有意義であった。
- ・現地は地形的にも起伏の激しいところという印象を強く受けた。
- ・トンネルが想定されるところについては、トンネルがどこに顔を出すかが問題である。大鹿村付近では大滑りの跡があり、心配もあるという話を聞いているが、全体が滑りやすいということではなく、部分的に滑るところがあるということなので、詳細なルートを決めるときに注意すれば、決して危ないトンネルができるということではないと思われる。
- ・大鹿村付近は急峻な地形であるので、工事中の道路関係等について慎重に検討した方がよいと思われる。

### <米澤技術審議官より、東日本大震災による東北新幹線の被害と復旧状況について説明>

（東日本大震災による東北新幹線の被害と復旧状況に対する委員からの主な意見）

- ・土木学会等の調査によると、阪神大震災以降の耐震基準でつくられた構造物は完全無傷という状況であった。また、現時点での判断では、これまでの耐震設計の考え方を改めるようなレベルの問題にはなっていないようである。

### <蒲生幹線鉄道課長より、中央新幹線小委員会答申（原案）について説明>

（中央新幹線小委員会答申（原案）に対する委員からの主な意見）

#### 【走行方式】

- ・「脱線現象を想定しえない」という表現をわかりやすい表現に修正すべき。

#### 【営業主体・建設主体】

- ・財務的な事業遂行能力に関する表現が強すぎるのではないか。
- ・建設主体に関して、鉄道・運輸機構は我が国で最も鉄道建設の蓄積があると記述があるのにも関わらず、最も技術力を有する機構ではなく、資金を有するJR東海が建設主体になると受け取られるので、超電導リニア方式の技術力においてと表現を改めるべき。
- ・社会状況が悪化することになれば、JR東海の収益力も悪くなるので、文章中の表現で

は説得力に欠けるのではないか。東海道新幹線だけは、社会状況の変化に影響を受けないという見方をされないような表現とすべき。

- ・ 東日本大震災を踏まえ、JR東海は本当に中央新幹線を建設するつもりがあるのか、確認すべきではないか。
- ・ 次回の小委員会で、JR東海からヒアリングを行うのがよいのではないか。

#### 【整備計画】

- ・ 南アルプスルートについては、「赤石山脈中南部」と記載してはどうか。

#### 【付帯意見】

- ・ 付帯意見①の表現は回りくどいので、わかりやすいように修正すべき。
- ・ コストダウンのところに運営面のコストダウンも明記すべき。
- ・ 高度なトランジットハブという言葉が分かりづらいので、分かりやすくすべき。
- ・ 付帯意見⑦の合理的な負担のあり方の検討方法について調整が行われることのところについて、答申として無責任にならないような表現とすべき。
- ・ 付帯意見⑨は、前半で国土政策等について、記載しているにも関わらず、後半は、地域の話に矮小化されている。記載の仕方を考えるべき。

#### 【その他】

- ・ 震災を踏まえたメッセージ、コメントを入れてはどうか。
- ・ 小委員会として震災を踏まえた記述を答申に鏤めた方がいいのではないか。
- ・ 東日本大震災による東北新幹線の被害と復旧状況の説明を受け、安心した部分がいくつかあった。
- ・ 阪神・淡路大震災の経験が活かされたため、東日本大震災では、大きな事故にはいたっていないことを入れた方が安心する。